

1 題材名 たしざんとひきざん

2 題材について

1年生で学習する「数と計算」領域では、「加法及び減法が用いられる場合について知ること。」「1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできること。」とし、加法では、1位数同士で繰り上がりのある範囲、減法は、20以下の整数で繰り下がりのあるものとなっている。数のしくみを理解してきた子どもたちにとって、その範囲の計算であればさほど抵抗感を持つことはない。ここで、大切にしたいことは「式をよむ」「具体的な場面から式を作る」「加法・減法の場面を言葉や絵で理解する」と考えた。計算の素地を築くときに大切にしたいのは、「問題場面からどんな式を使えばいいか」を考えられることである。

ここでは、たし算・ひき算の学習を一通り終えた後の学習として設定した。加法・減法が混在した場面から、自分で判断し、問題場面を選び出し、解決していく過程を大切にしたい。

これまでの学習では、加法や減法の問題場面をそれぞれが考えながら、「たし算とは。ひき算とは。」ということを考えてきた。本題材でも、様々な場面が出されることが当然出てくるだろう。しかし、共通な1枚の絵を見たとき、その中から作り出された加法や減法の場面をどのように読み取るのか、整合性はあるのかということ丁寧に考えていく学習を計画している。そのことによって、より加法・減法の意味について理解し、それらを用いることができるようになって考えている。

特に、子どもたちの素直な言葉や絵から読みとる個々の見方の違いを大切に扱うことは、自分の見方を伝え、友だちの見方と交わり、自分たちの見方へとつながっていくことになる。そこに、算数における加法・減法の概念理解を乗せていくことで、子どもたちが自分事として、算数を捉える素地を作ることになると考えている。

3 学習指導計画(2時間目/全5時間)

- 第1時 1枚の絵から、たし算やひき算の問題を作る。
- 第2・3時 友だちの作った問題を見て、みんなで考える。
- 第4時 もう一度、絵を見ながら、新しい問題を作る。
- 第5時 友だちの作った問題を解き合う。

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

- ・1枚の絵から友だちが作った問題について、共に考えようとする。
- ・問題を吟味することで、たし算やひき算の理解を深める。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で個人で作った問題のいくつかを発表し、絵を見ながら、対話を通して、整合性を吟味していく。</li> <li>・自分と違う見方や考えたに気づき、考えを出し合う。</li> <li>・どのような時に、たし算やひき算になるのか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文として成立しているかを確認し、絵との整合性を考えていく。場面、数、など少し変な部分も全体の話題として考えていく。</li> <li>例：バドミントンをしている子は、2人？4人？ うさぎとやぎは、たしてもいい？どうぶつで、くくるなら、犬もかも？</li> </ul>

使用教材：「みんなとまなぶしょうがっこうさんすう 1ねん」学校図書(株) 平成20年度版, p.118-119

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・1年生の学習で、「自分の考え」を伝え、「友だちの考え」と交わり、「自分たちの考え」と深めていく学習の在り方とは。